小　学　校

平成 31 年度(2019 年度)

教育研究員研究報告書

特別の教科　道徳

東京都教育委員会

目　次

Ⅰ　研究主題設定の理由 …… 1

Ⅱ　研究の視点 …… 2

Ⅲ　研究の仮説 …… 3

Ⅳ　研究構想図 …… 3

Ⅴ　研究内容 …… 4

1　基礎研究 …… 4

2　調査研究 …… 6

3　実践研究 …… 8

○低学年分科会 …… 8

○中学年分科会 …… 10

○高学年第一分科会 …… 12

○高学年第二分科会 …… 14

Ⅵ　成果と課題 …… 16

研究主題

自己の生き方について考えを深める児童の育成

～児童が主体的に学習に取り組む指導方法の工夫～

Ⅰ　研究主題設定の理由

１　研究主題について

平成 27 年に学校教育法施行規則を改正し、「道徳」が「特別の教科　道徳」として実施されるようになって今年度で２年目となった。この改正により、小学校学習指導要領解説特別の教科　道徳編（平成 29 年７月）（以下、「道徳編」と表記。）の第１章「総説」の１「改訂の経緯」には、「いじめの問題への対応の充実や発達の段階をより一層踏まえた体系的なものとする観点からの内容の改善、問題解決的な学習を取り入れるなどの指導方法の工夫を図ることなどを示したものである。（中略）答えが一つでない道徳的な課題を一人一人の児童が自分自身の問題として捉え、向き合う『考える道徳』、『議論する道徳』へと転換を図るものである。」と示された。

今年度の本部会の部員からは、日々の授業における課題として、「児童がより主体的に学び、道徳性を養っていくために指導方法を工夫・改善する必要がある。」や「児童が道徳的価値に関わる事象を自分自身の問題として捉え、『考える道徳』、『議論する道徳』の指導方法を充実させる必要がある。」ということなどが共通して挙げられた。

また、道徳教育推進状況調査（平成 30 年度　東京都教育委員会）においても、「道徳科の授業を行った上での課題としてどのようなことが考えられますか。」の問いに対し、都内全公立小学校等の 65.8％が「道徳科の指導内容や指導方法」と回答している。

「道徳編」第４章「指導計画の作成と内容の取扱い」の第２節「道徳科の指導」の１「指導の基本方針」の（３）に、「児童の自覚を促す指導方法を工夫する」があり、ここには、「道徳科は、道徳的価値についての単なる知的理解に終始したり、行為の仕方そのものを指導したりする時間ではなく、ねらいとする道徳的価値について児童自身がどのように捉え、どのような葛藤があるのか、また道徳的価値を実現することにどのような意味を見いだすことができるのかなど、道徳的価値を自分との関わりにおいて捉える時間である。したがって、児童が道徳的価値を自覚できるよう指導方法の工夫に努めなければならない。」と示されている。さらに、第２節「道徳科の指導」の３「学習指導の多様な展開」の（４）「道徳科に生かす指導方法の工夫」には、「ねらいを達成するには、児童の感性や知的な興味などに訴え、児童が問題意識をもち、主体的に考え、話し合うことができるように、ねらい、児童の実態、教材や学習指導過程などに応じて、最も適切な指導方法を選択し、工夫を生かしていくことが必要である。」と示されている。

以上のことから本部会は、「児童が道徳的価値を自覚できるよう指導方法の工夫に努めなければならない。」や「児童が問題意識をもち、主体的に考え、話し合うことができるように、ねらい、児童の実態、教材や学習指導過程などに応じて、最も適切な指導方法を選択し、工夫を生かしていくことが必要である。」に着目し、指導方法の選択や工夫から、児童が道徳的価値の理解を基に、これからの生き方の課題を考え、それを自己の生き方として実現していこうとする思いや願いを深められることを目指した。

そして、児童がねらいとする道徳的価値を自分自身の問題として捉え、これからの自己の生き方について考えを深める指導方法の工夫・改善に向け、研究主題を「自己の生き方について考えを深める児童の育成～児童が主体的に学習に取り組む指導方法の工夫～」と設定した。

２　副主題について

「児童が主体的に学習に取り組む」姿とは、「児童が道徳的価値に関わる事象を自分自身の問題として捉えて考えること」や「問題意識をもち、主体的に考え、考えを深めるために話し合うこと」と考える。

「道徳編」第４章の第２節「道徳科の指導」の３「学習指導の多様な展開」の（４）「道徳科に生かす指導方法の工夫」には、「ねらいを達成するには、児童の感性や知的な興味に訴え、児童が問題意識をもち、主体的に考え、話し合うことができるように、ねらい、児童の実態、教材や学習指導過程などに応じて、最も適切な指導方法を選択し、工夫を生かしていくことが必要である。」と示されており、さらに、指導方法の工夫の例として、「発問の工夫」や「話合いの工夫」等が挙げられている。

部員からは共通の課題として次の２点が挙げられた。第１に、「発問の工夫」では、「学習指導過程全体を一体的に捉えた発問の構成を工夫すること」である。また、第２に「話合いの工夫」では、「考えを出し合う、まとめる、比較するなどの目的に応じて効果的に話合うことやペアでの対話やグループでの話合い、学級全体での討議等の話し合う方法を使い分けること」である。

以上のことから、本研究では発問や話合いを取り入れた授業展開の工夫をすることで、児童は道徳的価値に関わる事象を自分自身の問題として受け止め、主体的に学習に取り組み、自己の生き方について考えを深めることができるであろうと考え、副主題を「児童が主体的に学習に取り組む指導方法の工夫」と設定した。

Ⅱ　研究の視点

「自己の生き方について考える発問の工夫」と、「多様な考え方を生かすための話合いを取り入れた授業展開の工夫」の２点を研究の視点として、具体的な指導の工夫について考えていく。

１　自己の生き方について考える発問の工夫

教師が、児童観、指導観及び教材観を明確にし、見通しをもった指導を行うことで、児童の道徳性を養うことができると考えた。

特に、発問の工夫に着目し、授業のねらいに深く関わる中心的な発問を吟味し、その中心的な発問を生かすための前後の発問を考え、それらを一体として捉えた発問の構成を工夫することで、児童が自己の生き方についての考えを深めることができると考えた。

２　多様な考え方を生かすための話合いを取り入れた授業展開の工夫

考えを出し合う、まとめる、比較するなどの目的に応じた話合いの場面を効果的に設定し、児童相互の多様な考え方を生かした授業展開を工夫することで、児童が自己の生き方について考えを深めることができると考えた。

その際、ねらい、児童の実態、教材や学習指導過程などに応じて、座席の配置の工夫、討議形式、ペアでの対話やグループによる話合いを取り入れる。児童の発達段階に応じて、話合いの方法を適切に選択し、分科会ごとに設定した。

Ⅲ　研究の仮説

発問や話合いを取り入れた授業展開の工夫をすることで、児童は道徳的価値に関わる事象を自分自身の問題として受け止め、主体的に学習に取り組み、自己の生き方について考えを深めることができるであろう。

Ⅳ　研究構想図

【現状と課題】

1　児童が主体的に学ぶための指導方法の工夫が必要である。

2　児童が道徳的価値に関わる事象を自分自身の問題として考える指導を充実させる必要がある。

【研究主題】

自己の生き方について考えを深める児童の育成

～児童が主体的に学習に取り組む指導方法の工夫～

【研究の視点】

1　自己の生き方について考える発問の工夫

2　多様な考え方を生かすための話合いを取り入れた授業展開の工夫

【研究仮説】

発問や話合いを取り入れた授業展開の工夫をすることで、児童は道徳的価値に関わる事象を自分自身の問題として受け止め、主体的に学習に取り組み、自己の生き方について考えを深めることができるであろう。

【研究の方法と内容】

（基礎研究）研究主題の「自己の生き方について考えを深める」の定義付けを行う。
副主題の「児童が主体的に学習に取り組む」姿を明確にする。

（調査研究）道徳教育推進状況調査（H29）及び全国学力・学習状況調査（質問紙）の「話合い」に関する数値の変化から分析を行う。

（実践研究）研究の視点に基づく指導方法の工夫・改善を取り入れた検証授業を行う。

【検証方法】

事前に児童に対して、本時でねらいとする価値についての実態調査を行う。自己の生き方について考える場面と多様な考え方を生かす話合いの場面で児童の学習状況を見取り、指導方法の手だてが効果的であるか、児童の変容から検証を行う。

Ⅴ　研究内容

１　基礎研究

(1)　「自己の生き方について考えを深める」の定義付け

「道徳編」第２章「道徳教育の目標」の第２節「道徳科の目標」の２「道徳性を養うために行う道徳科における学習」の（４）「自己の生き方についての考えを深める」では、「児童が道徳的価値の理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考えることを通して形成された道徳的価値を基盤として、自己の生き方についての考えを深めていくことができるようにすることが大切である。」と示されている。

このことから、本研究では「自己の生き方についての考えを深める」を、表１のように整理し、定義付けをした。

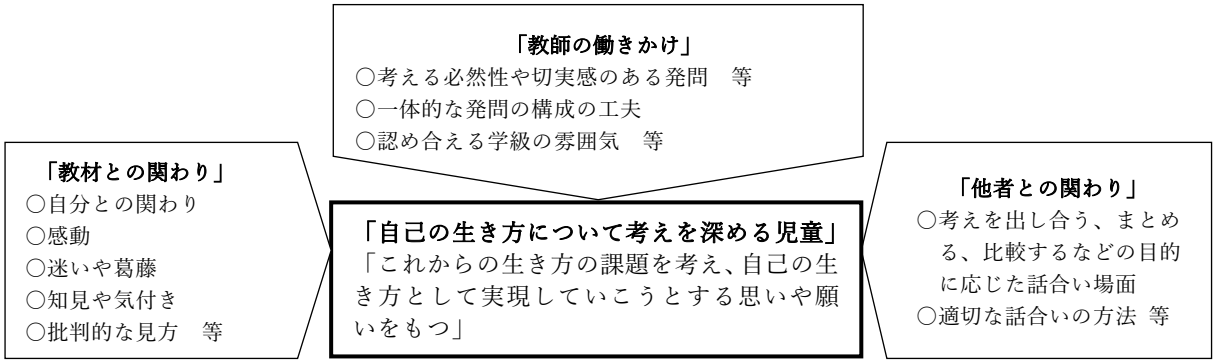
表１　「自己の生き方について考えを深める」の定義付け

道徳的価値	よりよく生きるために必要とされるものであり、人間としての在り方や生き方の礎となるもの
道徳的諸価値についての理解	道徳的価値が人間としてよりよく生きる上で大切なことであると理解すること（価値理解） 大切であってもなかなか実現することができない人間の弱さなども理解すること（人間理解） 感じ方、考え方は一つではない、多様であることを前提として理解すること（他者理解）
自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考える	これまでの自分の経験やそのときの感じ方、考え方と照らして考えを深めたり、多様な価値観の存在を前提にして、他者と対話したり協働したりしながら考えること
自己の生き方について考えを深める	これからの生き方の課題を考え、自己の生き方として実現していこうとする思いや願いをもつこと

表１のように児童が自己の生き方について考えを深めるには、図１のように教師の働きかけや教材及び他者との豊かな関わりなど、授業展開を工夫することが不可欠である。

実践研究における検証授業では、各分科会が図１のように授業展開を工夫することで、児童が主体的に学習に取り組み、「自己の生き方について考えを深める児童の育成」を目指した。

図１　「授業展開の工夫」



(2)　児童が主体的に学習に取り組む姿

児童が「自己の生き方について考えを深める」には、児童が道徳的価値に関わる事象を自分自身の問題として受け止め、主体的に学習に取り組むことが不可欠である。このことは、「道徳編」第４章「指導計画の作成と内容の取扱い」の第３節「指導の配慮事項」の３「児童が主体的に道徳性を養うための指導」の（２）「道徳科における児童の主体的な学習」に、「指導内容を児童が自分との関わりで捉え、切実感をもって学習することで真に児童が習得することにつながるものである。そのためには、児童の主体的な学びが必要になる。」と示されている。このことを根拠に「児童の主体的な学び」とは具体的に学習中のどのような児童の姿を指すのか明確にすることとした。

そして、（１）で定義付けした表１の「自己の生き方について考えを深める」も踏まえ、「児童が主体的に学習に取り組む姿」を「自己の生き方について問題意識をもつ」、「多面的・多角的に考える」、「自身の生活を具体的に振り返る」及び「よりよい自分を目指して、自己の生き方について考える」と捉え、その具体的な姿を表２のようにまとめた。

表２　「児童が主体的に学習に取り組む姿」

観点	具体的な児童の姿
自己の生き方についての問題意識をもつ	児童が道徳的諸価値と自己の生き方の差異に気付き、問題意識をもとうとする姿
多面的・多角的に考える	多様な意見や考え、様々な視点を基に、自分自身の考えをより広く深いものにしている姿
自身の生活を具体的に振り返る	これまでの自分の経験やそのときの感じ方、考え方と照らし合わせながら、更に考えを深めている姿
よりよい自分を目指して、自己の生き方について考える	伸ばしたい自己を深く見つめ、自己の生き方として実現していこうとする姿

実践研究では、このような具体的な児童の姿を見取ることで、自己の生き方について考える発問の工夫や多様な考え方を生かすための話合いを取り入れた授業展開の工夫の有効性を検証することとした。

２　調査研究

(1)　目的

道徳教育推進状況調査及び全国学力・学習状況調査（質問紙）の児童及び教員の意識の調査から、研究主題に迫る指導の工夫を考える視点を明らかにする。

(2)　内容

①平成 28･29 年度道徳教育推進状況調査（小学校）集計結果から、道徳科の指導に対する教員の意識の傾向を考察する。

②平成 31 年度全国学力・学習状況調査の学校質問紙児童質問紙の回答結果集計（国立政策研究所ウェブページより）から、学習に取り組む児童の意識の傾向を考察する。

(3)　対象

①東京都公立学校教員　【平成 28 年度】1244 校【平成 29 年度】1245 校

②【学校質問紙】東京都（公立）学校数　1291 校

【児童質問紙】東京都（公立）児童数　93428 名（第６学年）

(4)　調査結果と考察

児童や教員が道徳科の授業における「考えを深めたり、話し合ったりする」活動に対して、どのように感じているか。

①道徳教育推進状況調査集計結果

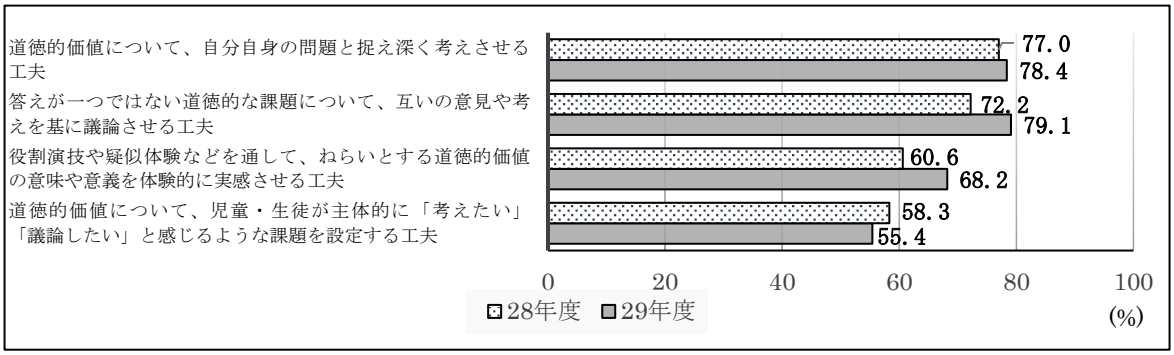
ア「道徳の時間」の授業を行った上での課題としてどのようなことが考えられますか。

道徳教育の振り返り	貴校において、「道徳の時間」の授業を行った上での課題としてどのようなことが考えられますか。次の項目から、該当するものを全て選んでください。							
項目／年度	適切な教材	効果的な指導方法	指導の効果を把握	全体計画や別葉の効果的な活用	道徳の教科化の背景や意義、ねらいについての教員の理解	「特別の教科　道徳」の指導内容や指導方法についての教員の理解	その他	特になし
２８年度	20.7%	**36.0%**	56.1%	15.0%	38.5%	58.9%	1.5%	3.9%
２９年度	27.8%	**71.9%**	55.7%	26.1%	44.3%	69.2%	1.8%	0.8%

○　考察

平成 28 年度と 29 年度の調査を比較すると、「効果的な指導方法が分からない」という項目において 28 年度の 36.0%から 29 年度の 71.9%へ 35.9%の増加が見られた。効果的な指導方法の工夫について、教員の課題意識が高まっていることが考えられる。

イ「特別の教科　道徳」の考え方に基づいて、どのような指導方法の工夫を取り入れた授業を実施していますか。



○　考察

平成 28 年度と 29 年度ともに、「ねらいとする道徳的価値について、児童・生徒が主体的に『考えたい』『議論したい』と感じるような課題を設定する工夫」については、東京都全体の学校の 60%未満となっている。

この結果から、「考えたい」「議論したい」と思わせる課題を設定し、児童が主体的に学習に取り組む指導方法を工夫することが必要であると言える。

②平成 31 年度全国学力・学習状況調査　学校質問紙回答より

【学校質問紙】	調査対象学年の児童に対して、道徳科において、児童自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしていますか。					
	1当てはまる	2どちらかといえば当てはまる	1と2の合計	3どちらかといえば当てはまらない	4当てはまらない	3と4の合計
東京都(公立)	40.7%	54.1%	**94.8%**	3.3%	0.0%	3.3%
全国(公立)	40.2%	56.5%	96.7%	3.0%	0.0%	3.0%
差	0.5	△2.4	**△1.9**	0.3	0.0	0.3

【児童質問紙】	道徳科の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思いますか。					
	1当てはまる	2どちらかといえば当てはまる	1と2の合計	3どちらかといえば当てはまらない	4当てはまらない	3と4の合計
東京都(公立)	40.4%	37.9%	**78.3%**	15.4%	4.4%	19.8%
全国(公立)	42.1%	38.8%	80.9%	14.9%	4.0%	18.9%
差	△1.7	△0.9	**△2.6**	0.5	0.4	0.9

○　考察

都内公立小学校等の教員の 94.8%が、道徳科の授業において、「児童自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫」をしているという意識をもっている。しかし、「自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる」という意識の児童は 78.3%であり、教員との間に 16.5%もの差が見られる。

このことから、児童が「自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる」と実感できるようにする必要があると言える。

(5)　考察のまとめ・実践研究に生かす視点

「道徳教育推進状況調査」の結果からは、効果的な指導方法や児童に「考えたい」「議論したい」と思わせる課題設定に課題が見取れた。また、「全国学力・学習状況調査」の結果からは、児童が「自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる」とより実感できることに課題があることが見取れた。

これらの課題を解決する効果的な指導方法を検証するために、「自己の生き方について考える発問の工夫」と「多様な考え方を生かすための話合いを取り入れた授業展開の工夫」について具体的に示し、実践研究に取り組んでいくこととした。

３　実践研究

低学年分科会

(1)　指導方法の工夫

ア　自己の生き方について考える発問の工夫

・導入、展開、終末の発問を工夫することで、自己の生き方について考えを深められるようにする。

・自己の振り返りでは、ワークシートを活用して今までの自分を振り返り、全体の話合いを通して考えさせることで、実践意欲につながっていくようにする。

イ　多様な考え方を生かすための話合いを取り入れた授業展開の工夫

・自分の行動を他人がどう捉えるかを考える役割演技を行う。

・役割演技を取り入れた展開によって、児童は自分の言葉で気持ちを表現できると考える。ペアから全体へと考えを広げることで多様な考え方に触れることのよさを感じることができるようにする。

(2)　検証の視点及び方法

ア　自己の生き方について考える発問の工夫

・発問の構成や、自己の振り返りで約束やきまりを守れた経験とその時の気持ちを問うことが、自己の生き方について考えることに有効であったか。

（授業観察及び発言分析及びワークシート）

イ　多様な考え方を生かすための話合いを取り入れた授業展開の工夫

・自分たちの行動を他人はどう捉えるかを考える発問や、役割演技を通して考えをペアから全体へと広げていく展開は、多様な考え方を生かすために有効であったか。

（授業観察及びワークシート）

ウ　「児童が主体的に学習に取り組む姿」

観点	具体的な児童の姿
自己の生き方についての問題意識をもつ	・みんなで使う物は、どのように使うとよいだろう。（自己を見つめる）
多面的・多角的に考える	・ぼくたちのせいだよね。（反省） ・しなければよかった。（後悔） ・みんなの気持ちを考えてつかおう。（気付き） ・謝りに行こう。（手段・方法） ・「なるほど。」「同じです。」（受容） ・「〇〇さんの意見から～。」（変化）等
自身の生活を具体的に振り返る	・公園で順番を守って遊具を使うことができたから、仲良く遊べて嬉しかった。等
よりよい自分を目指して、自己の生き方について考える	・これまでは片付けなかったこともあるけれど、これからは…（これまでの振り返りと今後の生き方） ・約束やきまりはみんなが気持ちよく過ごすためにあるということに気付いた。（社会との関わり）

(3)　検証授業　改善学習指導略案

主題名　　みんなのものをたいせつに　Ｃ　規則の尊重

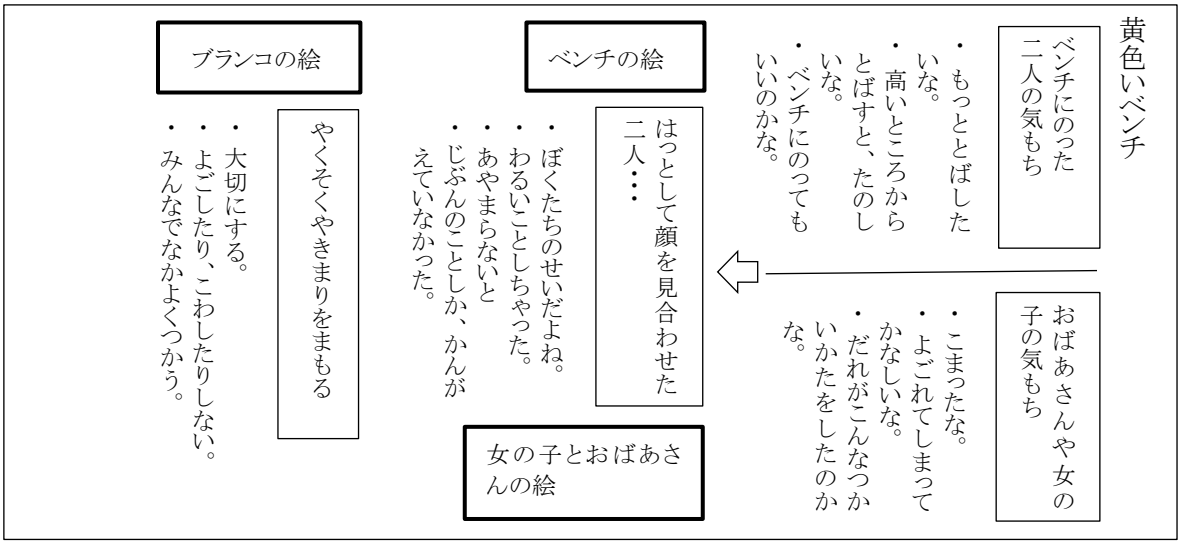
ねらい　　約束やきまりを守り、みんなが使う物や場所を大切にしようとする実践意欲を育てる。

教材名　　「黄色いベンチ」　（文部科学省　わたしたちの道徳　小学校１．２年）

学習指導過程

	学習活動（○発問　◎中心的な発問）	☆指導の工夫　◇評価
導入	1　生活の中で、みんなで使うものを振り返る ○みんなで使うものの様子を見てみましょう。	
展開	2　教材を読んで話し合う ○二人はどんな気持ちでベンチに上ったのですか。 ○どろだらけのスカートを見て、おばあさんや女の子はどんな気持ちでしたか。 ◎「はっ」として、顔を見合わせた後、たかしやてつおはどのようなことを思ったでしょうか。たかしやてつおになって言ってみましょう。（役割演技） 3　自分の経験を振り返る ○自分のことだけでなく、みんなのことも考えて約束やきまりを守れたことはありますか。その時、どんな気持ちでしたか。	☆黒板に登場人物やベンチなどの絵を示しながら教材を提示し、内容を捉えさせる。 ☆役割演技をすることで、二人の多様な気持ちを引き出し、多面的・多角的に考えさせる。 ◇約束やきまりを守り、みんなが使う物や場所を大切にしようとする実践意欲をもとうとしていたか。 （発言・ワークシート）
終末	4　教師の説話を聞く	☆担任からの手紙（みんなの物を大切に使えたり、きまりを守れたりしたことを褒める内容）を読む。

板書計画



(4)　成果と課題

成果　○発問の構成により、教材の人物に自我関与させ、自分自身について振り返ることにつなげることができた。

○おばあさんや女の子の気持ちを考えさせたことが役割演技に生かされ、多面的・多角的に考えることにつながった。

課題　○よりねらいに迫るために、児童の考えを深めさせる役割演技を通して、約束やきまりを守ろうとする実践意欲を高めさせることが必要である。

中学年分科会

(1)　指導方法の工夫

ア　自己の生き方について考える発問の工夫

・現在形で問うと反省の念しか出ないのに対し、「どんなことを考えていたでしょうか。」と過去形で問うことで、今後について、つまり「自己の生き方」についても考えられるようにする。

イ　多様な考え方を生かすための話合いを取り入れた授業展開の工夫

・話合い活動はペアから全体での共有という流れで行う。意見の交流が活発になり、自分の思いを伝えやすくなり、全体共有で多様な考え方を生かすことにつながる。

・「どんな気持ちでせいきゅう書を渡したのでしょうか。」に比べ、「せいきゅう書を渡した時どんな気持ちだったでしょうか。」と問うことで、多様な意見が出やすくなる。

(2)　検証の視点及び方法

ア　自己の生き方について考える発問の工夫

・過去形の発問は「自己の生き方」について考えさせることに有効だったか。（観察・発言分析）

・「今日の学習を通して、『家族との関わり方』について考えたことを書きましょう。」としたことは、ねらいに迫るための発問として有効だったか。（観察・発言分析・ワークシート）

イ　多様な考え方を生かすための話合いを取り入れた授業展開の工夫

・「なみだがあふれたたかしは、どんなことを考えていたでしょうか。」という発問や、ペアから全体共有の展開は、多様な考え方を生かすために有効であったか。（観察・発言分析）

ウ　「児童が主体的に学習に取り組む姿」

観点	具体的な児童の姿
自己の生き方についての問題意識をもつ	（アンケート結果を見て） ・家の人にやってもらっていることが多い。 ・自分がやっていることは意外と少ない。
多面的・多角的に考える	（自分の考えをもつ） ・自分のことばかり。（反省） ・なぜ、こんなことを。（後悔） ・ぼくのために…。（気付き） ・これからは…。（意欲） （相手の考えを聞いて） ・なるほど。たしかに。（受容） ・少し違って…。（比較）
自身の生活を具体的に振り返る	・これまではお手伝いは面倒だと思っていた。 ・やってもらうのは当たり前だと思っていた。
よりよい自分を目指して、自己の生き方について考える	（今後の生き方）（家族との関わり） ・これからわたしも…。・これからは…。 ・家族の一員として…。・家族と協力して…。

(3)　検証授業（第４学年）　改善学習指導略案

主題名　　家族の一員として　C　家族愛、家庭生活の充実

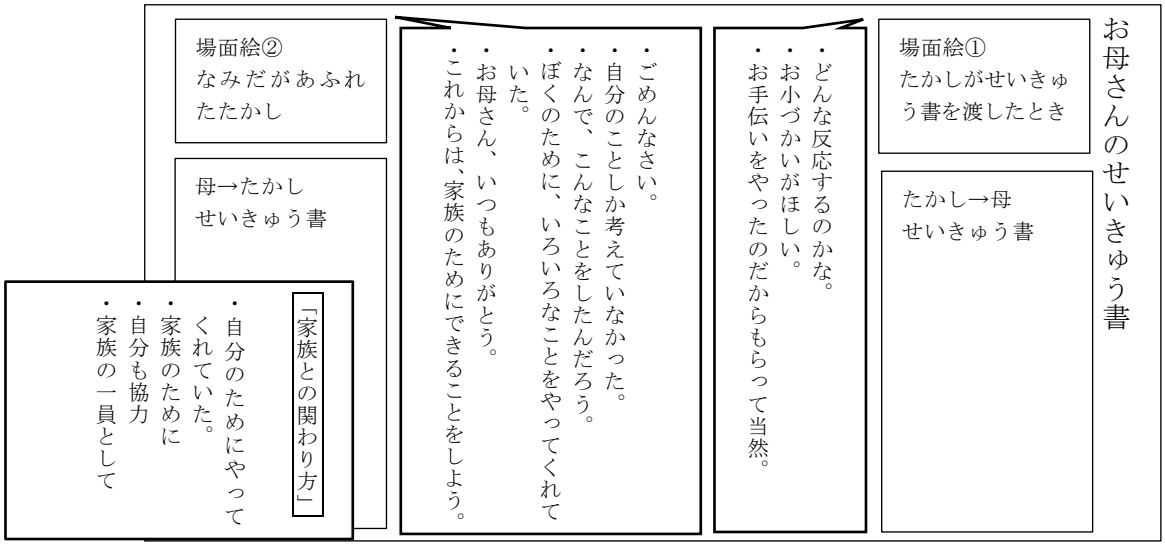
ねらい　　たかしの気持ちを考えることを通して、家族の一員であることの自覚を深め、家族みんなで協力し合おうとする態度を育てる。

教材名　　「お母さんのせいきゅう書」（「新しい　どうとく④」東京書籍）

学習指導過程

	学習活動（○発問　◎中心的な発問）	☆指導の工夫　◇評価
導入	1　事前アンケートの結果から、自分たちの現状に気付く（道徳的価値の自覚） ○結果を見て、思ったことはありますか。	☆児童に問題意識をもたせ、道徳的価値への方向付けを図るために、事前アンケートを活用した導入を行う。
展開	2　教材「お母さんのせいきゅう書」を読んで話し合う ○たかしはせいきゅう書を渡したとき、どんな気持ちだったでしょうか。 ◎なみだがあふれたたかしは、どんなことを考えていたでしょうか。（話し合う） 3　自分自身を振り返り、話し合う ○今日の学習を通して「家族との関わり方」について考えたことを書きましょう。	☆児童が教材の世界により浸れるように、視覚的な教材提示（プレゼンテーションソフト、紙芝居など）やＢＧＭを活用する。 ☆多様な考え方を生かすために、相手を変えたペアでの話合いを設定し、数人と話合いができるようにする。 ☆話合い中は、友達の考えに共感したり詳しく聞いたりさせる。 ◇家族の一員であることや、家族みんなで協力し合うことのよさについて考えようとしている。（発言・ワークシート）
終末	4教師の説話を聞く	☆家族の大切さについて話をする。

板書計画



(4)　成果と課題

成果　○発問を工夫することで､自己の生き方についてより深く考えさせることができた。

○ペアでの話合いや全体での共有の時間を確保することで、児童が多様な考えに触れ、自分の考えと比較し、考えを広げたり、深めたりすることができた。

課題　○児童に「家族の一員」という意識をもたせることが必要であった。

高学年第一分科会（第５学年）

(1)　指導方法の工夫

ア　自己の生き方について考える発問の工夫

・授業の導入で、児童の価値理解を問う発問を行うことで、道徳的価値への意識付けをし、「親切にするときに、大切なことは何か。」という学習問題を設定する。

イ　多様な考え方を生かすための話合いを取り入れた授業展開の工夫

・学習問題に対して、互いに自分の考えを伝え合い、多面的・多角的な考えを深めるためにグループでの話合い活動を取り入れる。

(2)　検証の視点及び方法

ア　自己の生き方について考える発問の工夫

・児童の問題意識を向上させるために設定した学習問題は有効であったか。（観察・発言分析）

・児童の本音を引き出しやすくする発問であったか。また、適宜入れた補助発問は、児童が自己の生き方について考える上で有効であったか。（観察・発言分析・ワークシート）

イ　多様な考え方を生かすための話合いを取り入れた授業展開の工夫

・児童が問題意識をもって考えた学習問題についての話合いを行うという展開は、自身の考えを広げ深める上で有効であったか。また、話合いの方法は、学級の実態に適したものであったか。（観察・発言分析・ワークシート）

ウ　「児童が主体的に学習に取り組む姿」

観点	具体的な児童の姿
自己の生き方についての問題意識をもつ	・「親切」にできない場面があるのはなぜだろう。
多面的・多角的に考える	・「誤解を解くべきか、そのままにするべきだったか。」また、「手伝うべきだったか否か」など、葛藤が見られる。
自身の生活を具体的に振り返る	・「親切」にするときの心構えを明確にしている。
よりよい自分を目指して、自己の生き方について考える	・相手の立場に立って考え、行動しよう。 ・誰に対してもすすんで親切にしよう。

(3)　検証授業　改善学習指導略案

主題名　相手の立場に立って親切に　Ｂ　親切、思いやり

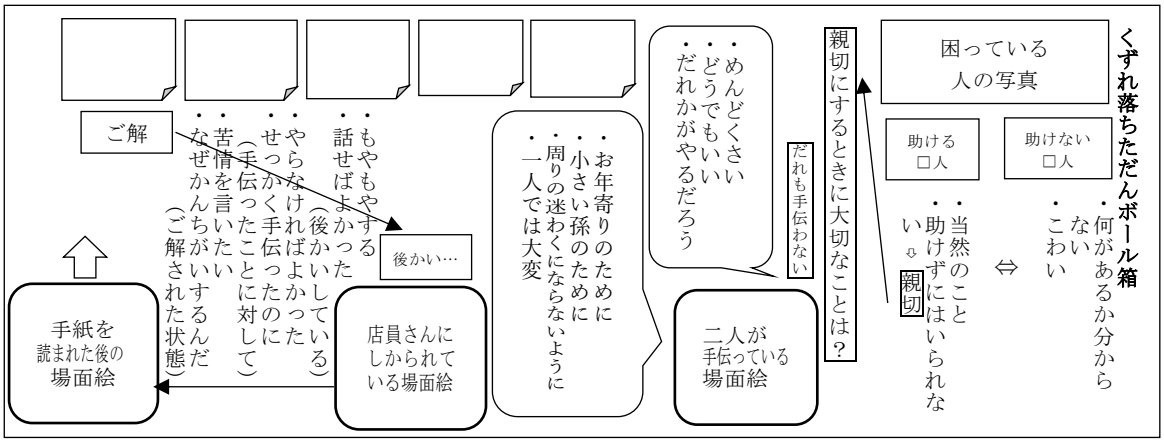
ねらい　親切にすることのよさや難しさについて考えを深め、誰に対してもすすんで親切にしようとする実践意欲を育てる。

教材名　「くずれ落ちただんボール箱」　（「新しい道徳⑤」　東京書籍）

学習指導過程

	学習活動（○発問　◎中心的な発問）	☆指導の工夫　◇評価
導入	1　道徳的価値への意識付けをし、学習問題を設定する ○目の前で困っている人がいます。どうしますか。 親切にするときに、大切なことは？	☆事前のアンケートから児童の価値観を明確にし、学習問題の設定をする。
展開	2　教材「くずれ落ちただんボール箱」を読んで話し合う ○大勢の客が誰も手伝わなかったのはなぜだろう。 ○二人はどんな気持ちで手伝ったのだろう。 ◎二週間どんな思いで過ごしていただろう。 ○なぜ、真実を話して誤解を解かなかったのだろう。 3　学習問題について改めて考える ○今日の学習を通して、「親切」について自分が考えたことを書きましょう。	☆現代社会の現状を把握し、実態に即した考えにつなげる。 ☆多様な考えにおける意図を、分類してまとめる。 ☆場面や機に応じた対応について、グループで話し合う。 ◇自己を振り返り、相手の立場に立って親切にすることの大切さを考えようとしている。（発言・ワークシート）
終末	4　教師の説話を聞く	☆「親切」についての話をする。

板書計画



(4)　成果と課題

成果　○発問の構成は効果的であった。

○児童は学習問題に対する考えを、根拠を基にして述べられていた。

課題　○話合い活動における有効な手だてを検証する必要がある。

高学年第二分科会（第６学年）

(1)　指導方法の工夫

ア　自己の生き方について考える発問の工夫

・教材のもつ主題やテーマそのものに関わって、それらを掘り下げたり、追求したりする発問に着目し、中心的な発問を「『寛容な心』で相手を受け止めると、どんなよいことがあるでしょう。」とした。また、終末では、児童が自己の生き方に焦点をしぼって考えられるようにした。

イ　多様な考え方を生かすための話合いを取り入れた授業展開の工夫

・メンバーを変えながら行う少人数での話合いを通して多様な考えに触れることが、これまでの自分の生き方を見つめ、これからの生き方について考えるための機会となると考えた。話合いは、以下の４点をねらいとして行った。

① 他者の多様な感じ方や、考え方に触れる

② 身近な集団の中で、自分の特徴を知る

③ 伸ばしたい自己を見つめる

④ 自己の生き方として、実現していこうとする思いや願いを深める

(2)　検証の視点及び方法

ア　自己の生き方について考える発問の工夫

・実態調査の結果を踏まえて、自己の生き方について考える場面での発問を工夫したことは、児童が自己の生き方について考えを深める上で有効であったか。（観察・発言分析・ワークシート）

イ　多様な考え方を生かすための話合いを取り入れた授業展開の工夫

・メンバーを変えながら行う少人数の話合いにより、ねらいとする価値について考えを広げることができたか。（観察・発言分析・ワークシート）

ウ　「児童が主体的に学習に取り組む姿」

観点	具体的な児童の姿
自己の生き方についての問題意識をもつ	・「寛容」にすることのよさとは何だろう。
多面的・多角的に考える	・「間違うことは誰にでもある。」 ・「みんなで生きていくためには、許し合うことも必要。」など。
自身の生活を具体的に振り返る	・「もう少し相手のことを分かろうとすべきだった。」など、過去の経験から思いを馳せている。
よりよい自分を目指して、自己の生き方について考える	・「寛容な心で対応しよう。」 ・具体的な場面を想定し、寛容でありたいとイメージしている。

(3)　検証授業（第６学年）　改善指導略案

主題名　　寛容な心とは　　Ｂ　相互理解、寛容

ねらい　　相手の考えや意見を素直に聞き入れ、謙虚で広い心をもち、相手の行動や過

ちを許したり受け入れたりしようとする心情や態度を育てる。

教材名　　「銀のしょく台」(「新しい道徳⑥」東京書籍)

学習指導過程

	学習活動（○発問　◎中心的な発問）	☆指導の工夫　◇評価
導入	1 アンケート結果を基に話し合う ○寛容という言葉を知っていますか。	☆事前アンケートを行い、価値への実態把握と動機付けをする。
展開	2 教材「銀のしょく台」を読んで、話し合う ○ミリエル司教は、なぜジャンに、銀のしょく台まで渡したのでしょう。 ◎「寛容な心」で相手を受け止めると、どんなよいことがあるでしょう。 3 話合いを振り返る ○友達のどのような意見に刺激を受けましたか。話合いを振り返りましょう。	☆寛容さが分かる心情や言動を中心に板書する。 ☆メンバーを変えながら行う少人数の話合いで考えを深めさせる。 ☆具体的に振り返らせ、多面的・多角的な価値理解に気付かせる。
終末	4 自己を見つめ、考えをまとめる ○これまでの自分の生活やこれからの自分の生き方について、考えたことを書きましょう。	◇自己の生き方について考えようとしている。 （発言・ワークシート）

板書計画

寛容…広い心・許すこと

「銀のしょく台」

なぜ銀のしょく台まで手渡したのでしょう。

しょく台の絵

・貧しくてかわいそう。

・これからの生活は大変だろう。

ジャンと司教

・困っている人がいるのにほうっておけない。

話合い

「寛容な心」で相手を受け止めるとどんなよいことがあるでしょう。

・相手からの信頼を得られる。

・悪いことをした人でも、反省して良いことをしようと努力することができる。

・相手も寛容な心で接してくれる。

これまでの生活やこれからの生き方について考えたことを書きましょう。

・寛容な心をもてるようにしたい。

(4)　成果と課題

成果　○「寛容な心」で人と関わり合うことのよさに気付き、これまでの自分を見つめ、これからの生き方について考えるきっかけとなった。

○ メンバーを変えながら行う少人数の話合いによって、考えの違いに気付くよさを児童が実感することができた。

課題　○ 自己の経験を振り返ったり、生き方について考えたりする時間をさらに確保する必要がある。

Ⅵ　成果と課題

１　「自己の生き方について考える発問の工夫」の成果と課題

分科会	検証の視点	成果・課題
低学年	発問の構成や、振り返りで約束やきまりを守れた経験とその時の気持ちを問うことが、自己の生き方について考える上で有効であったか。	発問の構成が、教材の人物に自我関与させ、自分自身について振り返ることにつなげることができた。実践意欲を高めさせることが課題である。
中学年	過去形での発問や振り返りでの「家族との関わり方について考えたことを書きましょう。」という発問は有効であったか。	発問の内容だけでなく、言葉の使い方にもこだわることで、自己の生き方についてより深く考えさせることができた。
高学年第一	補助発問を入れることでねらいに迫りやすくした発問の工夫は、自己の生き方について考えを深める上で有効であったか。	学習指導過程を一体として捉えた発問の構成は効果的であった。
高学年第二	実態調査の結果から自己の生き方について考える場面での発問を工夫したことは、児童が自己の生き方について考えを深める上で有効であったか。	人と関わり合うことのよさに気付き、これまでの自分を見つめ、これからの生き方について考えるきっかけとなった。

児童が自己の生き方について考えを深めるには、学習指導過程を一体とした発問の構成を工夫することが有効であった。今後は、児童の実践意欲を高めるために振り返りの時間を十分に確保することや継続的な評価を行っていくことが求められる。

２　「多様な考え方を生かすための話合いを取り入れた授業展開の工夫」の成果と課題

分科会	検証の視点	成果・課題
低学年	役割演技を通して考えをペアから全体へと広げていく展開は、多様な考え方を生かすために有効であったか。	登場人物の気持ちを考えさせたことが役割演技に生かされ、多様な考えを引き出し、ねらいに迫ることができた。
中学年	ペアから全体での共有という展開は、多様な考え方を生かすために有効であったか。	ペアでの話合いや全体での共有の時間を十分に確保することで考えを広げたり、深めたりすることができた。
高学年第一	児童が考えたテーマについての話合いを行うという展開は、考えを広げ深める上で有効であったか。	学習問題に対する考えを、根拠を基にして述べられていた。
高学年第二	メンバーを変えながら行う少人数の話合いは、ねらいとする価値について考えを広げる上で有効であったか。	話合いの仕方を工夫したことで、互いの考えの違いに気付くよさを実感することができた。自己の経験を振り返ったり、生き方について考えたりする時間をさらに確保していく必要がある。

事前に、ねらいとする価値についての実態調査を行ったことや目的に応じて話合いの形態を工夫したことは児童の多様な考えを生かす上で有効であった。今後も、児童の実態把握や教材の分析を丁寧に行うことが求められる。

平成 31 年度(2019 年度)　教育研究員名簿

小学校・特別の教科　道徳

低学年分科会

学　校　名	職　名	氏　名
豊島区立清和小学校	主任教諭	佐藤あや
荒川区立尾久第六小学校	主任教諭	藤野香奈
国立市立国立第八小学校	主任教諭	根本亜希子

中学年分科会

学　校　名	職　名	氏　名
杉並区立新泉和泉小学校	主任教諭	大西清加
練馬区立田柄第二小学校	主任教諭	川波一喜
府中市立小柳小学校	主任教諭	京極磨利子
西東京市立谷戸第二小学校	主任教諭	町田洋子

高学年第一分科会

学　校　名	職　名	氏　名
目黒区立東山小学校	教　諭	◎大立健太郎
江戸川区立上小岩小学校	主幹教諭	香川勇介
日野市立南平小学校	主任教諭	小杉純平
瑞穂町立瑞穂第一小学校	主任教諭	宮谷修助

高学年第二分科会

学　校　名	職　名	氏　名
豊島区立要小学校	主幹教諭	○花谷真理子
清瀬市立清瀬第八小学校	主任教諭	仲　恵
多摩市立北諏訪小学校	指導教諭	二瓶美紀
羽村市立小作台小学校	主任教諭	伊藤　聖

◎ 世話人　○ 副世話人

〔担当〕東京都教育庁指導部義務教育指導課
指導主事　播摩　靖文

平成 31 年度(2019 年度)

教育研究員研究報告書
小学校・特別の教科　道徳

令和２年３月

編　　集　東京都教育庁指導部指導企画課
所 在 地　東京都新宿区西新宿二丁目８番１号
電話番号　　（０３）５３２０―６８４９